

環境リスクマネジメント

※1 九州センター
旧工業技術院九州工業試験所

※2
2005年10月14日に公表済み。

※3 瀬戸サイト
旧工業技術院名古屋工業技術試験所瀬戸分室

環境リスク低減への取り組み

産総研では、研究活動に伴い発生する環境汚染事故をはじめとする環境リスクを未然に防止し、万が一事故が発生した場合に被害を最小化するような迅速かつ適切に対処できる体制をとっています。

騒音・振動については、つくば東事業所で一部規制値を超える騒音を発生する設備があったため、設備の改良を行い、騒音の低減に努めています。

なお、2005年度中に産総研の近隣にお住まいの方からの苦情などのお申し出は6件ありましたが、誠意を持って迅速に対応し、すべてご了承いただいています。また、罰金/料料はありませんでした。

石綿問題への取り組み

国内で大きな問題となっている石綿については、石綿を使用した研究計画および1988年以前に施工された吹き付け材の全所的調査を行いました。

その結果、過去に石綿を用いた研究を行っていたことが判明しました。また、吹き付け材調査では、一部の場所で石綿を含む吹き付け材を使用していることが判明しました。吹き付け材に石綿が含まれ、かつ浮遊している場所については、立ち入り制限、飛散防止対策などの適切な措置を行い安全性の確保に努めています。

今後も引き続き調査を進め、適切な対策を行います。

九州センターにおける石綿を使用した過去の研究活動について

九州センター^{※1}においては、石綿の低減化または代替化を促進するための研究開発を、1976年度～1993年度までの間に行っていました^{※2}。

これらの研究の実施状況などについて、当時の研究責任者などから聞き取り調査を行ったところ、関係法令に則った適切な作業が行われていなかったおそれがあることがわかりました。しかし、作業従事者に対して行った健康診断の結果、現在までに石綿による疾病と診断された人はいません。

産総研としては、今後とも研究に従事した職員などの健康管理を引き続き行い、その状況の公開に努めるなど、適切に対応します。

中部センター瀬戸サイトにおける土壌汚染調査について

中部センターではISO14001認証取得に伴い、瀬戸サイト^{※3}の土壌汚染を自主調査しました。その結果、誠に遺憾ながら土壌環境基準値を超える鉛汚染（基準値の1.1～5.6倍）が見つかりました。鉛汚染原因としては、陶磁器の研究で使用した^{ゆうやく}釉薬に含まれていたものと思われますが、当サイトでは鉛を使用した陶磁器の研究は1975年頃で終了し、その後は鉛を使用した研究は行っていません。現在は光触媒の研究をしており、今後新たに土壌汚染が拡大することはありません。また、地下水については敷地内4方4箇所を調査し汚染されていないことを確認しています。環境基準を超えた箇所の土壌対策については、既に汚染区域内立ち入り禁止や飛散防止などの応急措置を実施しましたが、今後も関係機関と協議の上、覆土や地下水の定期的な観測など十分な施策を実施します。